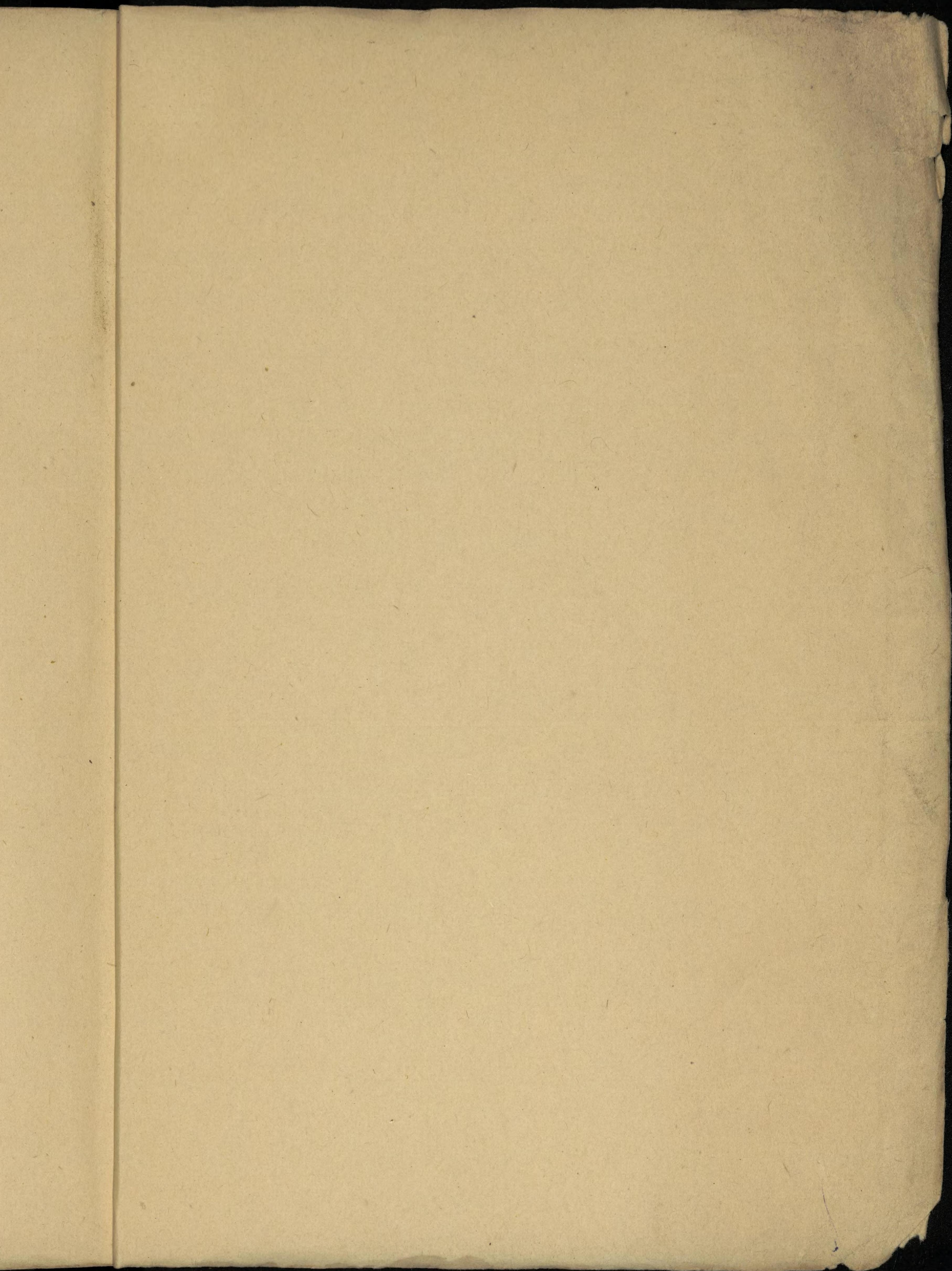
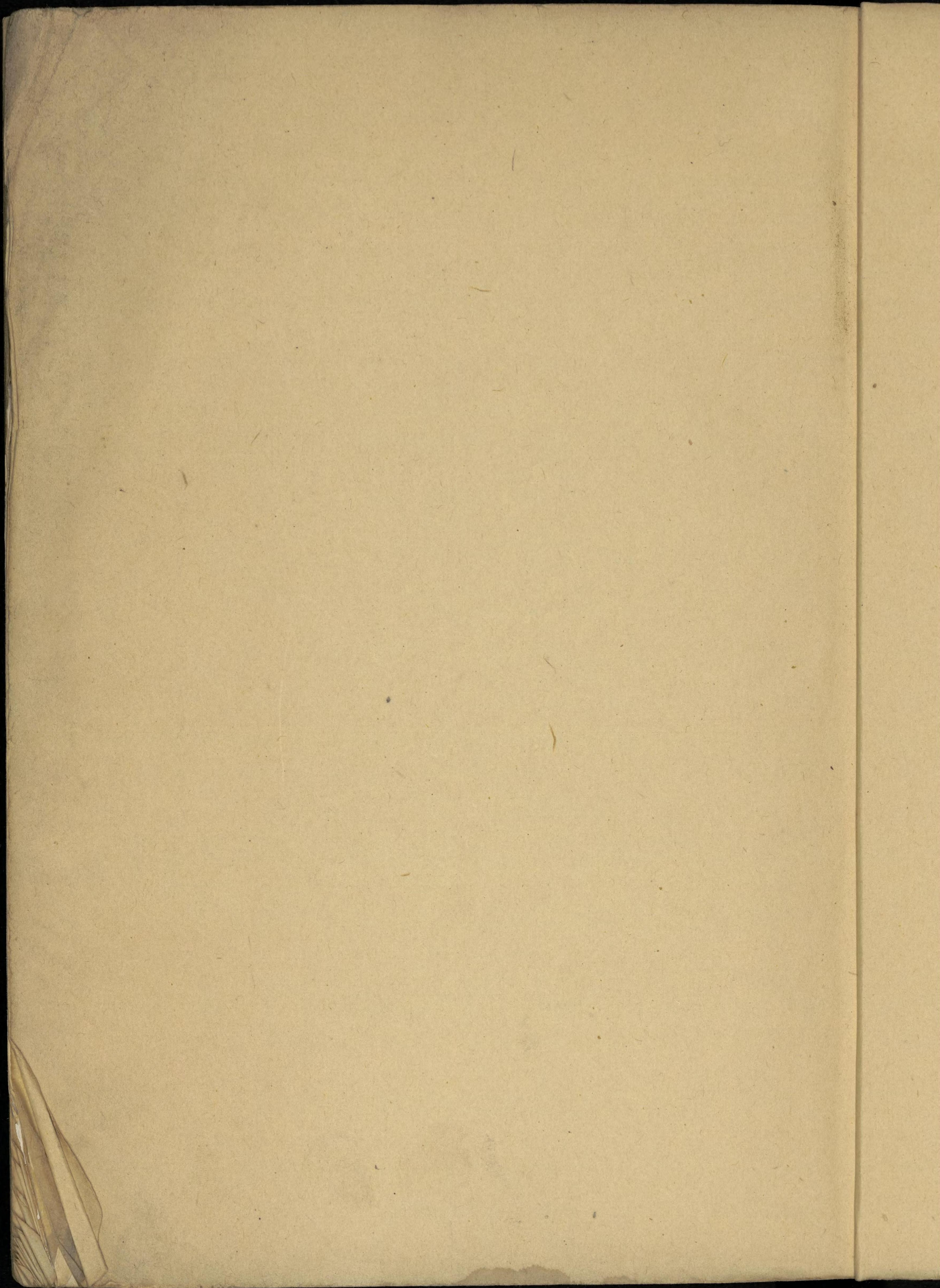


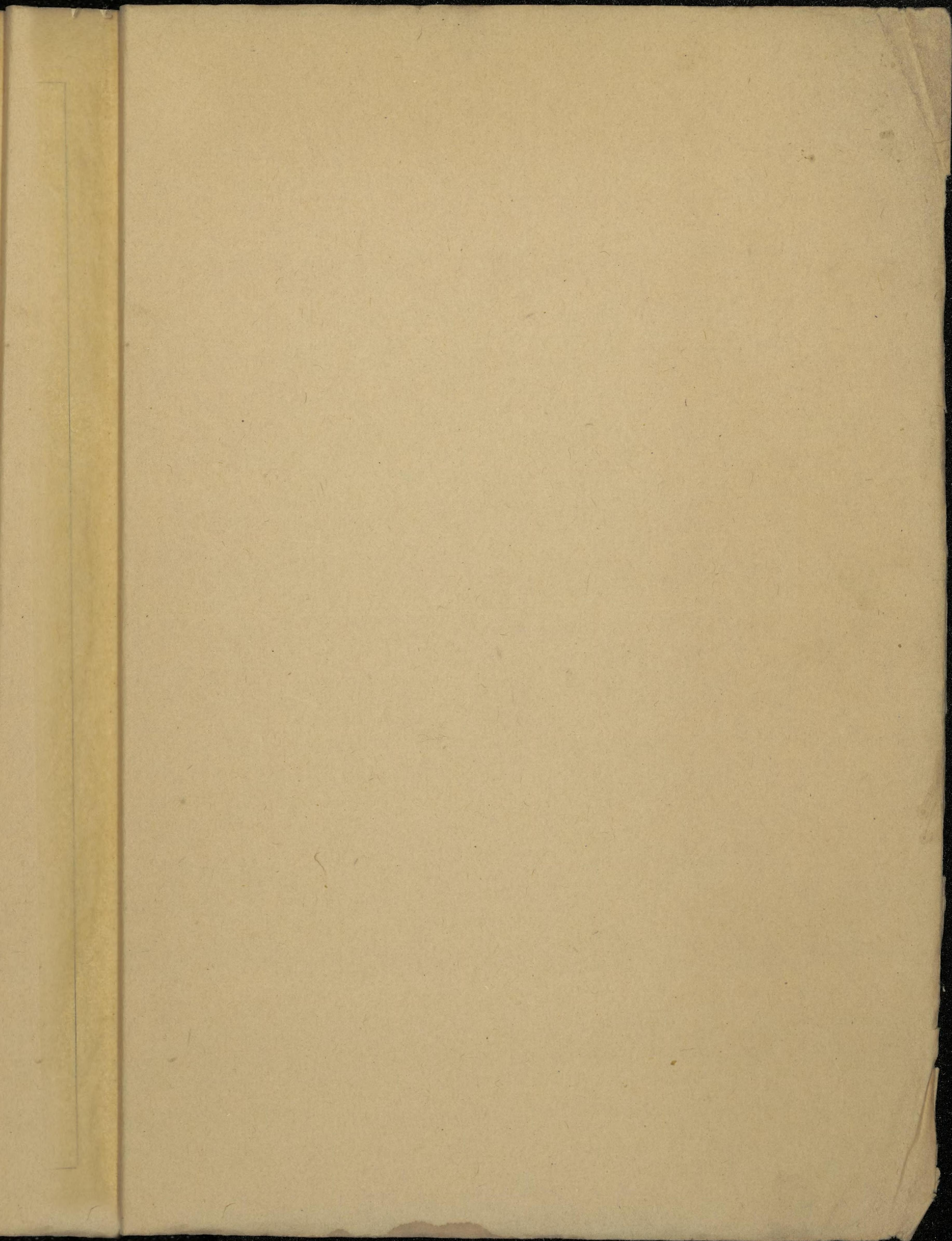
218

48

非
借
所
子
禮





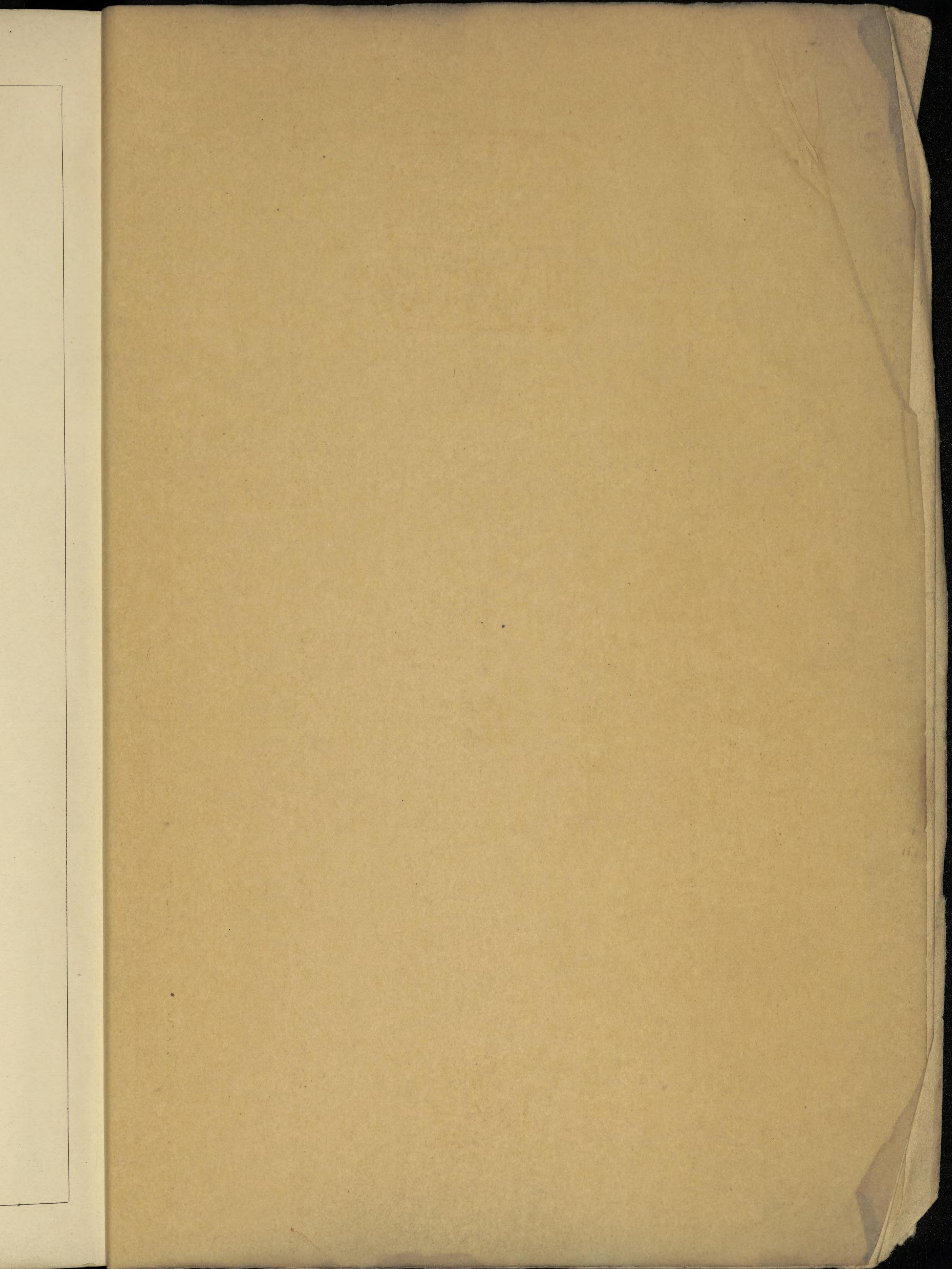




諧
師
手
鑑

附
作者
列
傳



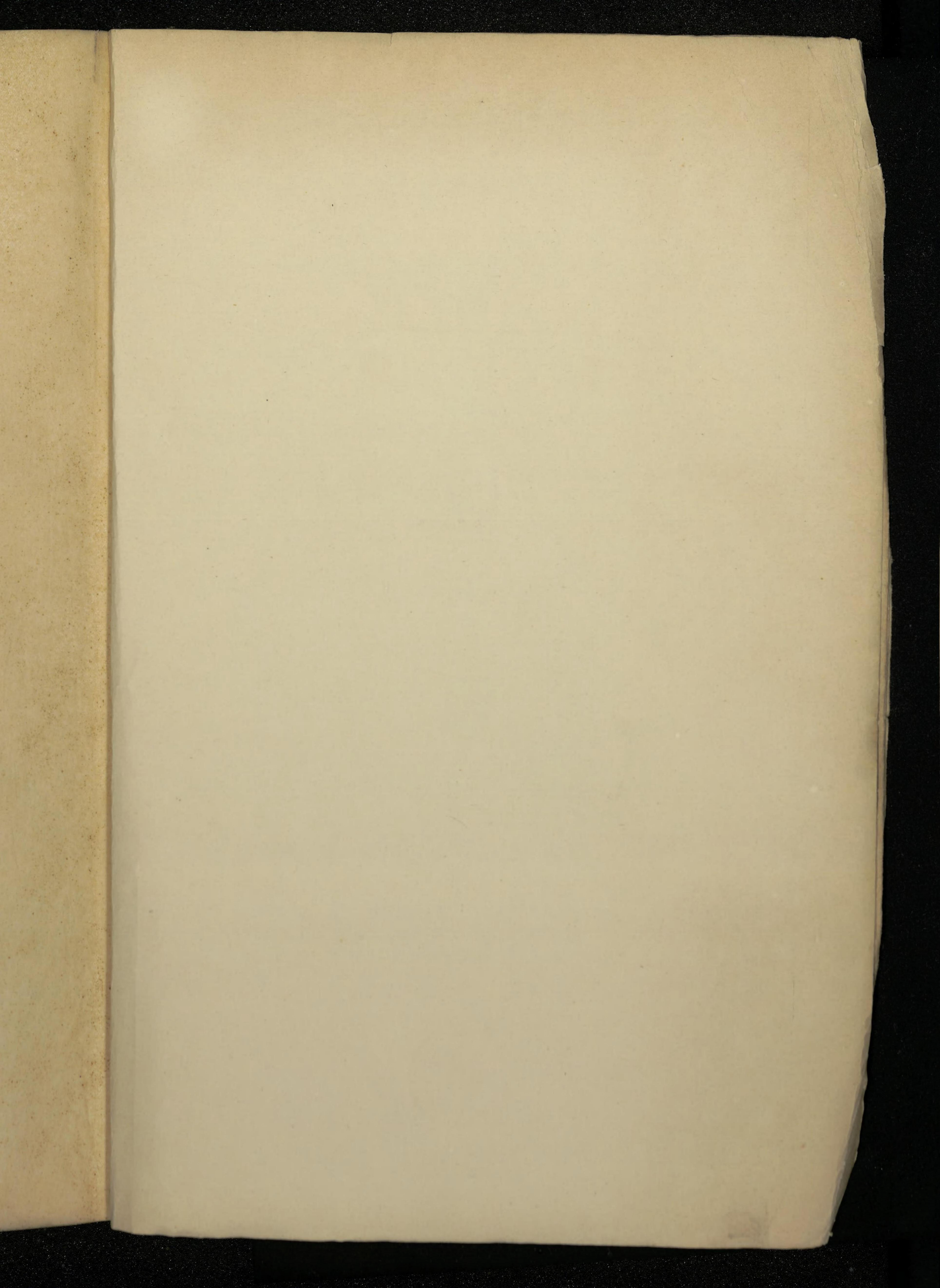




諧
師
手
鑑

附
作者
列
傳





誹諧師手鑑前集編者井原西鶴真蹟

朝花見好里
今夕月

西鶴

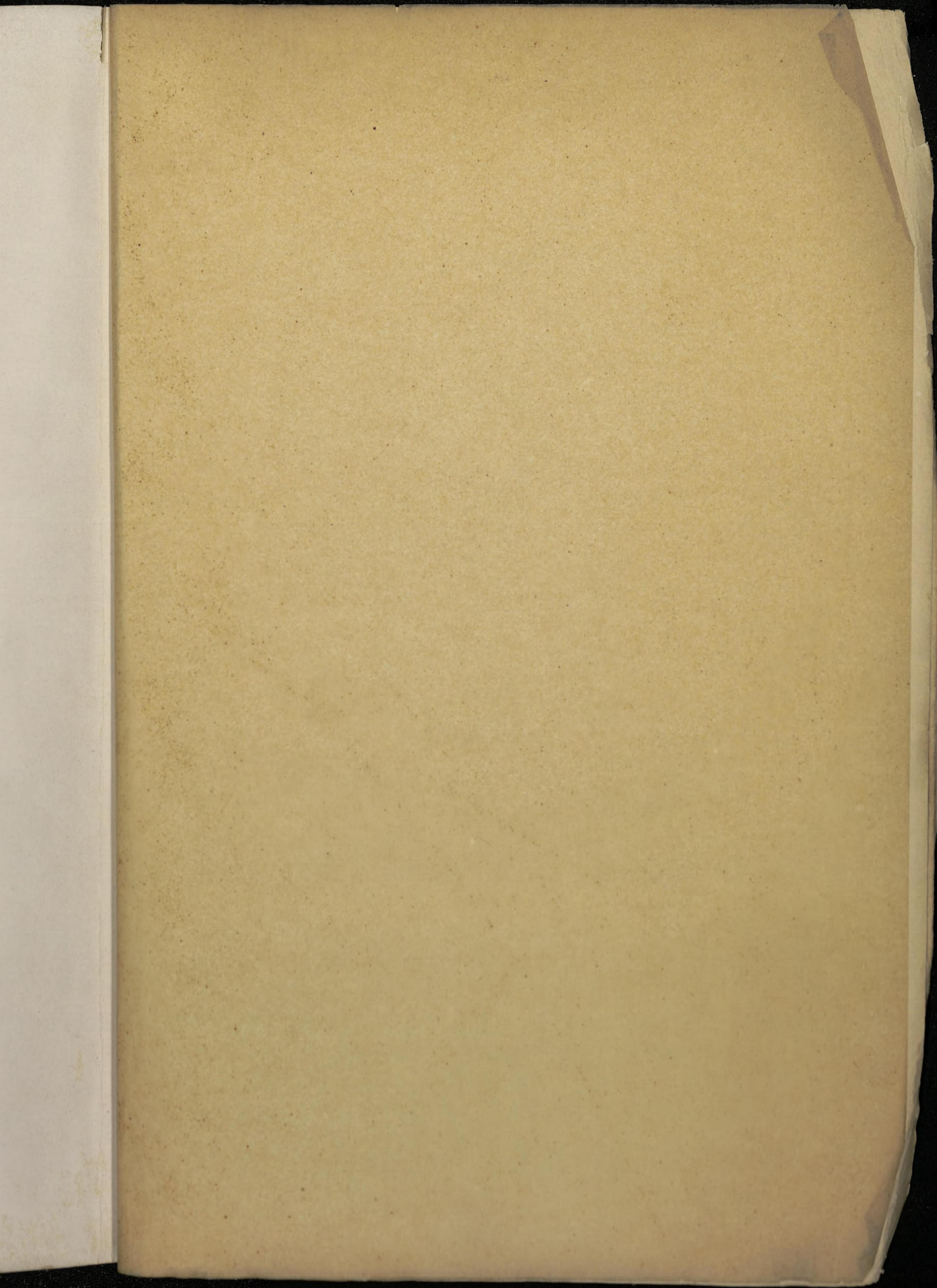
伊藤松宇所藏

誹諧師手鑑後集編者佐倉笑種真蹟

昔川瓜又物
今夕月

笑種

伊藤松宇所藏



誹諧師手鑑前集編者井原西鶴真蹟

朝花見好里
夕鶴

伊藤松宇所藏

誹諧師手鑑後集編者佐倉笑種真蹟

昔川瓜又物
笑種

伊藤松宇所藏



解 說

本書の原版は俳書中の權威と稱さるゝもので、前集は編者井原西鶴の序に、延寶四丙辰陽月廿五日。後集は佐倉笑種の序に元祿十三庚辰陽月上旬とあつて、豎一尺二寸九分横八寸九分と云ふ唐紙刷の大本帙入二卷である。本書出版元は奥附に名記が無いから不明であるが、原所藏者は蘭學者桂川甫周の實弟森島中良又の名森羅亭萬象と云ふ天明の狂歌界で世に知られ、紅毛雜話を著はして有名な人の舊藏であつた。其後珍書屋達摩屋五一の手に移り、夫れから私の藏となつたので、孰れも卷頭に押捺してある藏書印が物語つて居る。本書が初めて世に紹介されたのは、石川巖氏が「西鶴全集」を出版された當時俳諧篇第一卷に、帝國大學國文學研究室の所藏にかゝる舊洒竹文庫のものを前集だけ編入せられたものあるのみである。併し之は手鑑をそつくり出したのではなく、本文を活字にしたのみで、手鑑と云ふ名實が添はぬと、前集中に所載の俳句のみを編入されたのであるから、古人の墨蹟を偲ぶと云ふ便すがにはならぬが、石川氏が初めて世に紹介されたと云ふ功績は没すべきでない。

世に古筆の手鑑と云ふものはあれども、俳諧の手鑑と云ふものは本書が嚆矢であつて、全く前古無比のものである。されば寶曆元年十二月大夢庵毛越が「古今短冊集」を編したが、彼の自叙にも本書の事が引かれて居ない。跋の蕪村が文中に

(前略)大夢子が古今短冊集出て大にいにしへの名流を集め、ちかく當時の同盟を會す、まことに其風詠聲あるがごとく、その手澤うごくがごとし、こゝにおいて人始て俳諧の美をしり、風雅の徳を仰ぐ、たとはゞ首山葵丘の盛なる、森然として見るべし、穴かしこ余が論むなしからず、はた毛越を稱して俳管仲と呼で論中の盟主となさん歎、毛越笑て余に跋をもとむ、余曰於我子亦管鮑の交あり、辭すべからずつゝに此言をもつて書。

寶曆辛未冬

東都囊道人蕪村誌

斯様に記されてあつて、毛越も蕪村も、先鞭をつけられたる西鶴の手鑑には一言半句も言及して居らざる所を以て視れば、兩人とも本書の世に在ることを知らざりし哉必せりである。又明和元年に雪中庵蓼太が芭蕉翁眞跡集を編纂されたが、更に其噂がない。斯る著名な人々でさへ知らざりしものなれば之を往時に溯つても元祿五年に出版せし阿誰軒柳麿の「誹諧書籍目録」にも、同じく十五年に出版せし俳諧書肆井筒屋の「俳書値段附書目」にも亦「合類書籍目録大全」にも見る所がない、唯僅かに書名の存するものは「誹家大系圖」引用書目の中に「書名ノ首ニ●ヲツケシハ俳諧古集作者盡ノ引書ナリ」とありて本書名を列記したるものと「新群書類從第七」書目中に延寶四年出版のもの、み見えたる外私の陋見に觸れたるものがない。

所で又僅かに世に傳はつた本書の前集に彼の俳聖芭蕉翁を始め蕉門の人々が此編に漏れた事である。本書の出版された延寶四年の正月は芭蕉翁は未だ三十三歳の壯年時で、小石川關口の水道工事を了へて深川の杉風が別墅に移り、風蘿坊、錢杖子など、稱して住まはれた翌々年の春であるから、遺憾ながら文名噴々

たる井原西鶴の眼には未だ映じなかつたのである。西鶴の歿したのは元祿六年八月十日で、芭蕉翁より僅

川の杉風が別墅に移り、風蘿坊、錢杖子など、稱して住まはれた翌々年の春であるから、遺憾ながら文名嘖々

たる井原西鶴の眼には未だ映じなかつたのである。西鶴の歿したのは元祿六年八月十日で、芭蕉翁より僅かに二歳の年上であつたが、世に大名を揚げたのは遙かに早かつた故でもあつたらうが、兎に角西鶴が編した本書の前集には芭蕉翁の手腕が見認められなかつたのである。

元祿十三年に佐倉笑種が後集を編した時は芭蕉翁の歿後六年の後であつたが、前集の出版後廿四年の後であるから芭蕉翁の聲名と徳望とは大したものであつたから、後集には無論編入されたのであつた。従て前集に漏れたる蕉門の徒其角、嵐雪、木因、蚊足、諷竹、尙白、團友、之白、舍羅、荷兮、女流では智月、その女等々、蕉門以外の俳豪には彼の木枯の言水、蛇之介常矩、白炭の忠知の三家あり、其他來山、鬼貫、素堂、沾徳、三千風等の諸名家を數ふ。茲に至て前後集揃うて初めて完備せるものと云ふべきである。

又本書の内容に至りては、前集の巻頭には俳諧の鼻祖守武、宗鑑を始め貞門の一派は固より談林の徒は巨頭宗因を巻軸にあらまし網羅してあり、其外縉紳家にありては、烏丸大納言光廣卿、二條前關白康道卿の堂上方を始め、内藤左京、大村因幡守、小堀遠江守、水野半左衛門等の大名小名を見る。又後集には、青蓮院尊澄法親王殿下をはじめ、近衛三藐院信尹公、西洞院時成卿、細川玄旨法印、京極甲斐守、内藤下野守等の親王家や名門諸公卿並に諸侯等俳諧を弄ぶ當代のあらゆる界級の人々は網羅し盡してある。是に因て之を觀れば此時代に於ける俳壇は什麼に旺盛であつたかを想察することが出來やう。

右前後集兩編を通じて四百九十二人の名家の短冊に揮毫せる墨蹟集は實に數千圓を以てしても購ひ得ざるものである。嗚呼蕪村、蓼太の如き俳豪も在世本書あることを知らずして逝かれしは如何にも痛恨事

であつた。私は斯る珍籍を獨り擅まゝにすることを遺憾として、數年前俳諧の遺墨珍書等を扱へる友人に本書の覆刻を詢りしも半途にして長逝され、其後二三の書肆が覆刻を企てたが、本書の形態容式が如何にも長大巨冊にて原版の儘では今日の民衆的に沿はず、且つ何分にも非常な高價につくので一般の愛書家に適せずとありて中止することになつたのである。然る所茲に書肆厚生閣主人が本書の事を聞き傳へ幾多の書估が孰れも躊躇せるを慨し、奮然起て事に方り、本書の形態を稍縮少し、字體は毫厘も違はぬやうにオフセット版を以て鮮明に印刷し、又原書の書體に處々難讀の文字多ければ、これを更に活字に改譯して平易にし、併せて作家の傳記を添へ以て大方の愛好者に頌たんと希望を述べられ、遂に義俠的の態度に出て之を引受けて呉れる事に成つたので、私が年來の宿志を爰に達成せしめられたことを深く多とするのである。本書に添加したる俳人の傳記については大西一外君を始め、今田謹吾君、鎌田賢吉君を煩はしたる事尠なからず、爰に特記して深く謝意を表す。

昭和五年初冬

礫川關口芭蕉庵に於て

伊 藤 松 宇 識

誹諧師手鑑作者及列傳目次

作者	本文頁數	列傳頁數	作者	本文頁數	列傳頁數
荒木田守武	一	一	末吉道節	六	五
一夜庵宗鑑	一	一	織筆齋春可	七	五
烏丸光廣	一	二	江崎幸和	七	五
松永長頭丸	二	二	西岸寺任口	七	五
本勝寺日能	二	二	北村季吟	八	五
安來庵策傳	二	二	加藤磐齋	八	五
津田休甫	三	二	石田未得	八	六
野々口立圃	三	三	半井慶友	九	六
松江重頼	三	三	高瀬梅盛	九	六
齋藤德元	四	三	池田正式	九	六
花島坊空存	四	三	岡部元綱	拾	六
雞冠井令德	四	四	小濱嘉隆	拾	七
安原正章	五	四	若山宗明	拾	七
高鳴立札	五	四	馬淵重治	一一	七
山本西武	五	四	夕陽庵道寸	一一	七
光貞之妻	六	四	中井正道	一一	七
壬生昌意	六	四	荻野似空	一二	七
			柏井一正	一二	七
			豐藏坊信海	一二	七
			正法寺成安	一三	八
			柏原ステ	一三	八
			内藤風鈴子	一三	八
			松山玖也	一四	八
			中川喜雲	一四	八
			圓滿寺皆虛	一四	八
			富永燕石	一五	九
			山田光貞	一五	九
			福井知德	一五	九
			若山定時	一六	九
			水野榮甫	一六	九
			昌雲軒春清	一六	九
			勝尾寺義空	一七	九
			岩手宗也	一七	九
			大村一風	一七	一〇

目次

池田是誰	山岡元隣	女榮春	隼士常辰	北峯正甫	松坂和年	半井一六	山田孝晴	渡邊氏重	岡本胤及	尾ノ關乘言	符類屋改信	堺盛之	青地可賴	林御門跡	內田平吉	川崎宗立	山田正友	伊藤則常	清淨院哥慶	蔭山休安
------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-----	------	------	------	------	------	------	-------	------

二四	二四	二四	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二二	二二	二二	二拾	二拾	二拾	一九	一九	一九	一八	一八	一八
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

二三	二三	二三	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

井上友貞	了安寺夕翁	清水春宵	渡邊友意	荒木田伊人	野々口資方	水野半左衛門	井岡友碩	玉手貞直	小野信世	望月重供	桑折宗臣	桑山三之助	服部定清	大橋可理	堀滿直	竹內三信	伊勢村意朔	大村可全	高瀬道甘	阿知子顯成
------	-------	------	------	-------	-------	--------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-----	------	-------	------	------	-------

三一	三一	三一	三拾	三拾	三拾	二九	二九	二九	二八	二八	二八	二七	二七	二七	二六	二六	二六	二五	二五	二五
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

一五	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一二	一二	一二
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

片山秋月	谷永重	川崎方女	喜多村立以	天神木王	清水不存	井野口流味	廣岡宗信	西田元知	堀田不必	谷口重以	一原友我	池田豈休	石田笑言	澁谷安明	荒木田武清	門村兼豐	篠屋宗隆	三宅永覺	伊勢村重安	端定重
------	-----	------	-------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	-------	-----

三八	三八	三八	三七	三七	三七	三六	三六	三六	三五	三五	三五	三四	三四	三四	三三	三三	三三	三二	三二	三二
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

一七	一七	一七	一七	一七	一七	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

春陽軒加友
三九
一七
釋蒲劍
四六
二〇
多門院問加
五三
一三三

奧西友三	金剛院恩真	鳴木正伯	堀内交云	山城貞因	平山方救	栗田立康	兒玉規吉	粕谷一滴	小松原長時	淺沼贊也	犬井貞恕	武野保俊	山田竹犬	蔭山無睦	西院紀子	中堀幾音	朝江種寬	竹井嶺利	蓮花寺吟市	谷松西丸
------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------

六六	六六	六六	六五	六五	六五	六四	六四	六四	六三	六三	六三	六二	六二	六二	六一	六一	六一	六拾	六拾	六拾
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

二八	二八	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二五	二五	二五	二五
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

道場禪閑	半孤軒一三子	柏井一守	生白庵行風	田中銀竹	中林素立	北村湖春	日暮重興	一孤軒調和	俊	平野治平	駒井加友	荻野似船	山口清勝	森下貞盛	岡田悅春	蝶々子貞宣	和氣由貞	平野仲安	藤井社樂	井原西鶴
------	--------	------	-------	------	------	------	------	-------	---	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------

七三	七三	七三	七二	七二	七二	七一	七一	七一	七拾	七拾	七拾	六九	六九	六九	六八	六八	六八	六七	六七	六七
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二八	二八	二八	二八	二八	二八
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

古筆了佐	多田院月山	常樂寺素隱	半捨軒正察	葉分軒千之	樋口如見	伊藤信德	細川成政	中嶋勝直	石井如自	忠	女自龜	梅原卜入	高	長谷寺秀政	川地素軒	片岡旨恕	寺田無禪	和氣遠舟	細谷成元
------	-------	-------	-------	-------	------	------	------	------	------	---	-----	------	---	-------	------	------	------	------	------

八拾	八拾	八拾	七九	七九	七九	七八	七八	七八	七七	七七	七七	七六	七六	七六	七五	七五	七五	七四	七四	七四
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

牧野西鬼

八一

三三

雁金休音

八八

三六

武野俊佐

九五

三九

鳴木正伯	六六	二七	相井	七三	三〇	常樂寺	八拾	三三
金剛院恩眞	六六	二八	半孤軒一三子	七三	三〇	多田院月山	八拾	三三
奧西友三	六六	二八	道場禪閑	七三	三〇	古筆了佐	八拾	三三

誹諧師手鑑後集作者及列傳

作者	本文頁數	列傳頁數	作者	本文頁數	列傳頁數
牧野西鬼	八一	三三	雁金休音	八八	三六
岡田満足	八一	三三	久能徳窓	八九	三六
梶山保友	八一	三三	大和田武門	八九	三七
小堀宗甫	八二	三四	柳原正房	八九	三七
前關白康道	八二	三四	富田宗祐	九拾	三七
西山宗因	八二	三四	碓下氏一武	九拾	三七
尊澄親王	八五	三五	大平伯貞	九一	三七
近衛信尹	八五	三五	岩田有哉	九一	三七
京極甲斐守	八五	三五	末吉寸斗	九一	三七
半井云也	八六	三五	宗雲寺山石	九二	三八
瀧本坊昭乘	八六	三六	内山一彥	九二	三八
成就院日如	八六	三六	平尾幸以	九二	三七
加藤雲堂	八七	三六	加藤村俊	九三	三八
萩原照星	八七	三六	伊勢村次良	九四	三八
高津令巾	八七	三六	山川無樂	九四	三八
無量光院靜山	八八	三六	中野一直	九四	三八
森清長	八八	三六	北村正立	九五	三八
			松岡定用	九五	三九
			足代弘氏	一〇二	四一
			久遠寺空雅	一〇二	四一
			草恩院日怡	一〇一	四一
			小澤卜尺	一〇一	四一
			田中常矩	一〇一	四一
			そ の 女	一〇〇	四一
			志賀俊安	一〇〇	四〇
			晚翠堂桂葉	一〇〇	四〇
			喜多泰重	九九	四〇
			尼智月	九九	四〇
			妙滿寺素桂	九九	四〇
			鹿嶋宗純	九八	四〇
			齋藤賀子	九八	四〇
			櫻井親十	九八	四〇
			池西言水	九七	三九
			飯袋子重道	九七	三九
			東常倫	九七	三九
			小西來山	九六	三九
			近藤幽山	九六	三九
			辻宗順	九六	三九
			武野俊佐	九五	三九

目次

五

加納道與 武田三吉 蜂屋宗富 岡村正辰 水野梅吟 松江近吉 清水言聽 荒瀨金門 馬場久次 岡嶋猿風 岡嶋宣慶 宮川了味 橋本每延 藤村倫員 富松吟夕 半田常牧 松浦廣寧 淺井正村 光堂愚鈍 齋藤如泉 白江醉鶯

一〇二 一〇三 一〇三 一〇三 一〇四 一〇四 一〇四 一〇四 一〇五 一〇五 一〇五 一〇六 一〇六 一〇六 一〇六 一〇七 一〇七 一〇七 一〇八 一〇八 一〇九

四一 四二 四二 四二 四二 四二 四二 四二 四二 四二 四二 四三 四三 四三 四三 四三 四三 四三 四三 四三 四四

永昌軒弁朗 神野忠知 佐伯小弁 谷木因 三井秋風 澤田由健 萩原律友 高瀨元晴 隅田路春 鴨水只丸 河口保成 水間沾德 山田賀種 中山榮治 淀屋重當 芳賀一晶 內田橋水 井上友房 佐々木道繁 藤本盛庸 田代松意

一〇九 一一〇 一一〇 一一〇 一一一 一一一 一一一 一一一 一一二 一一二 一一二 一一三 一一三 一一三 一一三 一一四 一一四 一一四 一一五 一一五 一一六

四四 四四 四四 四四 四四 四四 四五 四五 四五 四五 四五 四五 四五 四五 四五 四六 四六 四六 四六 四六 四六

樋口山夕 川崎正信 鈴木信房 喜多田親 石井令富 西岡泰德 內田正朝 藤吉貞兼 服部嵐雪 桑門離雲 鷹峰土也 大野秀和 佐竹直親 榎本其角 和田蚊足 德成寺智詮 露吸庵和及 小作宗連 渡部未學 岡昌房 水野福富

一一六 一一七 一一七 一一七 一一八 一一八 一一八 一一九 一一九 一一九 一一九 一一九 一一九 一一九 一一九 一二〇 一二〇 一二〇 一二二 一二二 一二三

四六 四六 四七 四七 四七 四七 四七 四七 四七 四七 四七 四七 四七 四七 四八 四八 四八 四八 四八 四九

大淀三千風

一二三

四九

鳥路齋文十

一三〇

五二

西吟

一三七

五四

三輪	下村	小原	江左	北條	上嶋	桑門	櫻井	沙門	槐本	神	木原	勝圓	望月	伊藤	草壁	青木	本就	小野	國友	大淀
一	康	正	尙	團	青	西	友	幽	諷	季	宗	寺	重	賴	舉	友	院	氏	重	三
鐵	吉	在	白	水	人	海	吉	明	竹	貞	圓	正	方	富	白	雪	知	範	軌	千
一三〇	一三〇	一二九	一二九	一二九	一二八	一二八	一二八	一二七	一二七	一二七	一二六	一二六	一二六	一二五	一二五	一二五	一二四	一二四	一二四	一二三
五二	五一	五一	五一	五一	五一	五一	五一	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	四九	四九	四九	四九
高嶋	井狩	根來	木村	牧野	小西	澤井	白井	谷崎	坂東	富田	野田	岩田	林	可	長井	遊行	大淵	福井	松井	鳥路
及	友	之	三	晴	似	之	春	谷	杏	譽	本	團	定		蚊	上	玄	重	方	齋
加	靜	白	箇	嵐	春	河	丸	遊	醉	文	春	友	明	鄉	市	阿	弘	種	寸	文
一三七	一三七	一三六	一三六	一三六	一三五	一三五	一三五	一三四	一三四	一三四	一三三	一三三	一三三	一三二	一三二	一三二	一三一	一三一	一三一	一三〇
五四	五四	五四	五四	五三	五三	五三	五三	五三	五三	五三	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二
乾	由	原	荒	福	阿	岩	高	光	高	小	池	榎	汲	原	松	藤	十	小	中	西
昨	良	不	尾	井	形	橋	嶋	吉	井	野	田	並	谷	田	苔	井	方	谷	村	
非	正	卜	直	重	但	豐	轍	定	立	松	常	舍	軒	貞	軒	宗	窩	立	一	
一四四	一四四	一四三	一四三	一四三	一四二	一四二	一四二	一四一	一四一	一四一	一四〇	一四〇	一四〇	一三九	一三九	一三九	一三八	一三八	一三八	一三七
五七	五六	五六	五六	五六	五六	五六	五六	五六	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五四	五四	五四	五四	五四

白江	齋藤	光堂
醉鶯	如泉	愚鈍
一〇九	一〇九	一〇八
四四	四三	四三
田代	藤本	佐々木
松意	盛庸	道繁
一一六	一一六	一一五
四六	四六	四六
水野	岡昌	渡部
富	房	未學
一二三	一二三	一二二
四九	四九	四九

原田信勝 青木春澄 豐嶋東首 吟花堂晚山 日方貞長 事足軒未及 木村好與 藤本百丸 佐倉笑種 安平次幸方 山本善人 三澤國信 山口素堂 藤井智德 朝江種榮 駒井貞繼 吉田尾蠅 江口塵言 細井釣寂 稱好軒慈敬 長井伴自 坂上稻丸

一五一 一五一 一五一 一五〇 一五〇 一五〇 一四九 一四九 一四九 一四八 一四八 一四八 一四七 一四七 一四七 一四六 一四六 一四六 一四五 一四五 一四五 一四五 一四四 一四四

五九 五九 五九 五九 五九 五九 五八 五八 五八 五八 五八 五八 五八 五七 五七 五七 五七 五七 五七 五七 五七 五七 五七 五七

福養愛貞 進藤世恥 別富秀延 出來松白 小平野尙好 筒井宣安 寺田重德 淨專寺遠 堀江林鴻 遠藤正友 山本荷兮 岩井不尺 神戶可入 野口在色 山岡元恕 幸田正舍 小坂井雪柴 望月千春 瀧方山 岡村不卜 高木皆醉

一五九 一五八 一五八 一五八 一五七 一五七 一五六 一五六 一五六 一五六 一五五 一五五 一五五 一五四 一五四 一五四 一五三 一五三 一五三 一五二 一五二 一五二 一五二

六二 六二 六二 六一 六一 六一 六一 六一 六一 六一 六一 六一 六〇 六〇 六〇 六〇 六〇 六〇 六〇 五九 五九 五九 五九

細川玄旨 西洞院時成 內藤露沾 日體上人友閑 秋野坊露情 朝倉道順 松尾芭蕉 女山人 上嶋佛兄 觀音寺智泉 中野仲昔 古渡堂橫船 黑川六翁 福田露言 那波律宿子 五十嵐良和 日置風水 里 佐田松安 松本青雲 武村萬海 中尾我黑 金龍寺櫻叟

一六六 一六六 一六六 一六五 一六五 一六五 一六四 一六四 一六四 一六三 一六三 一六三 一六二 一六二 一六二 一六一 一六一 一六一 一六〇 一六〇 一六〇 一五九 一五九 一五九

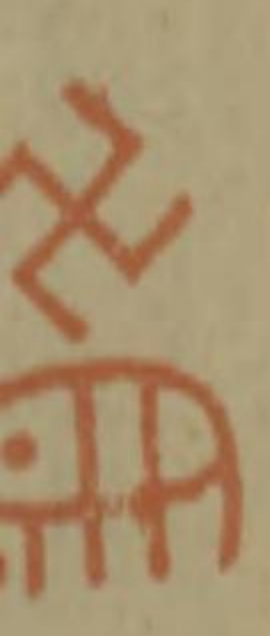
六五 六五 六四 六四 六四 六四 六四 六四 六三 六三 六三 六三 六三 六三 六三 六二 六二 六二 六一 六一 六一 六一 六一 六一

陳毅昔年一
 教如也
 秘秘之目
 右人多
 之
 名無
 是
 心

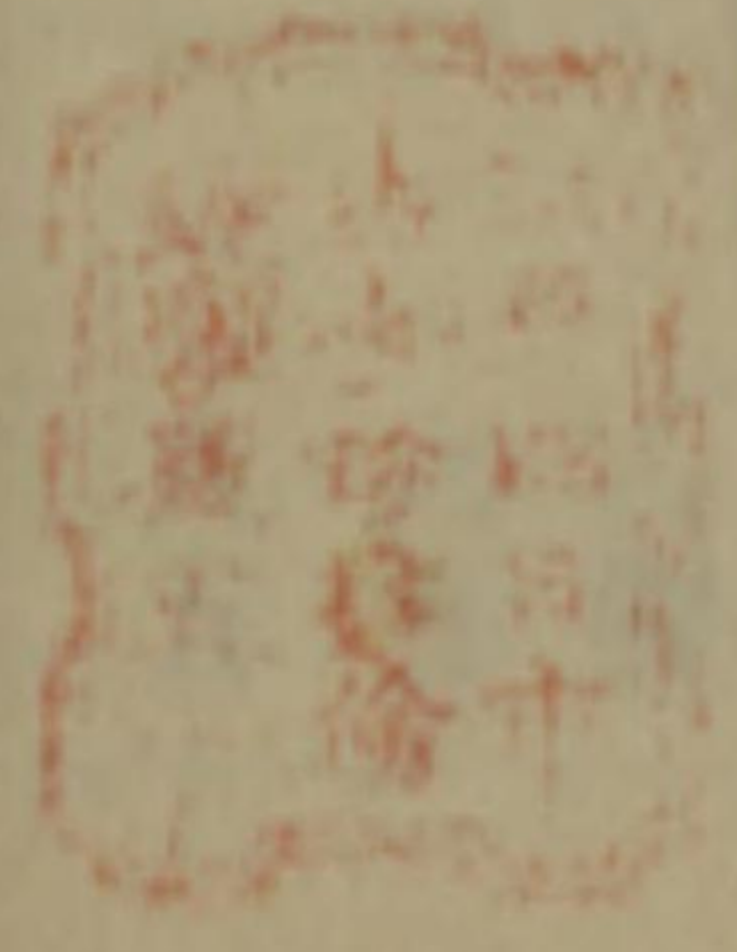
手塚 意木由守美



和書之圖



詩寶堂

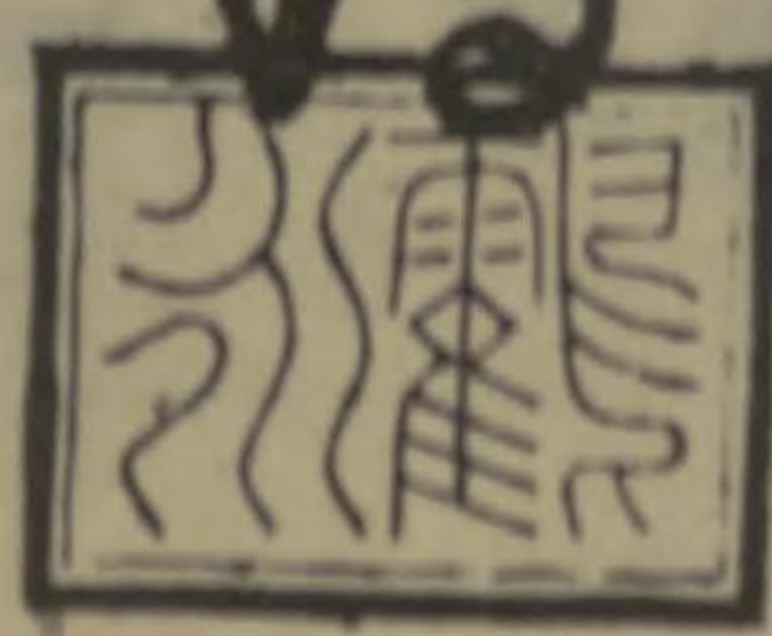


道は心持のこころをまはと輝くは
侍家又は命の乃好しく是なり
る婦人清く是存の心はくは建心なり
るし一書は接中なるたのむ事由は人
乃選はまゝの如くはなり

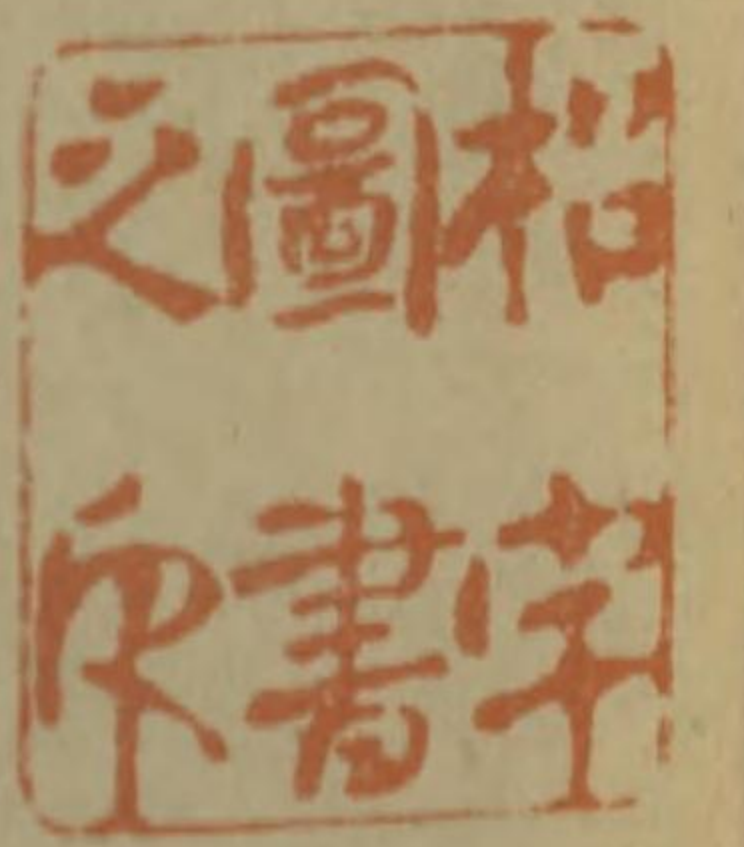
道は心持のこころをまはと輝くは

接中なるたのむ事由は人

乃選はまゝの如くはなり

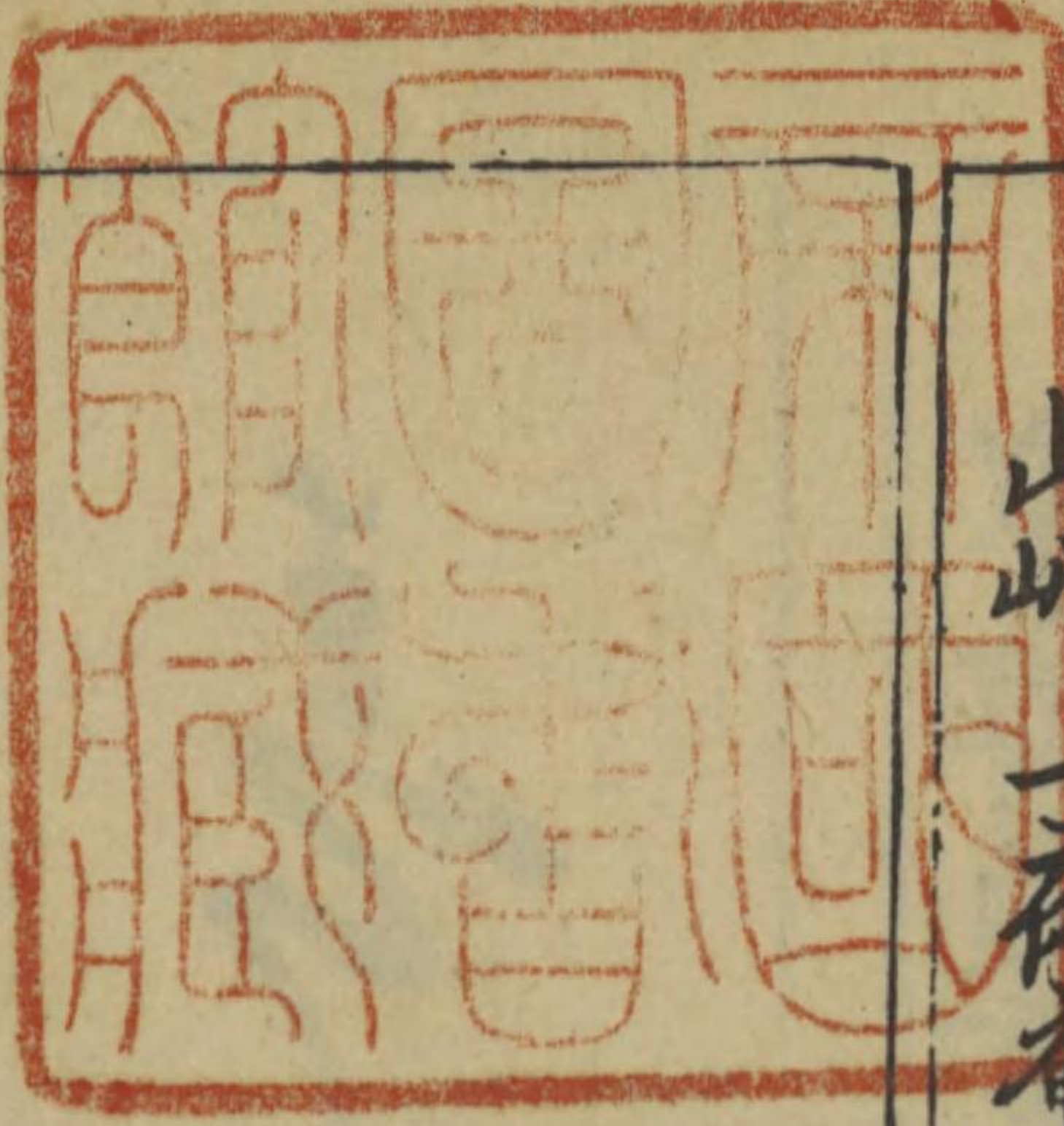


侍傳 菅原由守氏



予自一飛毒也如ろしし白くし神丸春
いせ山田 義

山崎一夜庵宗鑑



満ちたよらるるたはれんるるる
宗鑑

舊丸 大納言光廣云

寛十二試免

元日
丑也

予自一飛毒也如ろしし白くし神丸春
いせ山田 義

京道遊軒松永貞徳

可久たぬおれま草末の巻
筆

越前本勝寺目能

まへとくはくわんりてん

京道善頼寺安末庵

山嵐吹くさきさき

大坂津田依甫

大坂 津田休甫

花の雪は富貴の世を
風流

京野之口松翁

帝の御座りて
御座りて

同 松江維舟

下戸の風は胡蝶の天衣
空頼

江戸 母藤徳元

松らやーら 春初花主梅徳元

大坂 天海花鳥坊

和生り力や心月結 結法作 亦好

京 雛冠井令徳

尺遊花境さびりり 井令徳

京 安原正章

京 安原正章

名のれ名乃一も津も道一都公正章

江戸 高崎玄礼

元三月やこ下此弓一免言礼

京 山本西武

名衣きあやんこしきさく 西武

伊弉 山田女

天乃くはれまのりふらふのゆ

まきま

京 壬生昌玄

秋乃蟬ま月比のあま

まきま

平野 末吉道節

くすまもむしあまのこみ

まきま

京 織篁斎春

京 杉拾穂軒

はきちやうにふりすりやいり緒季略

揚子山田加藤能安

枕きくはな袖きも 町子 柳家

江戸 石田未得

あひめ終い今川 未得

堺 半井慶友

堺 半井慶友

ふりての所はふりてのま 慶友

京 高瀬佳心子

此の後 ちのち 後 あとのち 梅盛

和歌 船山池田氏

若くは乃き方をもくしむる式 式

泉島岸田忠光總

江河をまてびり流すのみ其層も古くは

大坂 小浜氏社殿

舟のし福柳やわらもさなる 志

紀島 若山宗明

舟の福柳やわらもさなる 志
宗明

東馬淵宗明

京馬淵宗時

流るる水は次枯標まら

三治

天王寺夕陽庵以春

首
あふ水は
の月
通す

京中井正直

池に水は
氷を多の
同か好
正直

塙
正法寺後寮

世に傳へしあふるに風は桐子小庵

舟波栢原女ステ

深川とみねあふるに風は桐子小庵

ステ

岩城
内藤左京殿

かゝる松やと物神代の風
檜

大坂松山邸也

中線也

一馬也

廣鴻 中川 秋也

一八二一年一月廿五日

秋也

土佐 國滿寺 皆庄

一八二一年一月廿五日

土佐 昌永 燕石子

去佐 昌永 戀石

花小くもよき音あはれは恋石

伊勢 山田光貞

残りの雨宵小蕨やあはれ入子 光貞

京 福井知徳

山風如くもよき音あはれは恋石 知徳

紀功若山定時

出心守り凡乃古心成存心礼王明

大坂 水野榮甫

死後身之主心公執守山榮甫

江戶 昌軒春清

有
心
守
り
凡
乃
古
心
成
存
心
礼
王
明
昌
軒

津園 勝尾寺後室

心守り凡乃古心成存心礼王明

津園 勝尾寺 菴室

雪
く
月
や
子
下

潛波 岩手 志

雪
白
花
の
葉
白
哉
定
也

中後 大村 園 菴 殿

餅
月
の
光
ハ
氷
砂
糰
子
一
瓦

大坂 天海菴山休安

今志鳥乃翅や經の神長成休安

和加 前清淨院

鼻柱のゆゑに月の白嵐亦安

京 伊藤則常

取中標も一氣に為清かゝる 則常

伊藤 山田友

伊勢山田家

寸心月東也く
百五七之
家

大坂川崎宗立

秋鹿村の
宗立の
家

京内田平吉

高知の
平吉の
家

越前林御所跡

泉乃禮也代母大ニ事也
船の事 林

京 青地可頼

泉乃禮也代母大ニ事也
船の事

泉乃禮盛之

御神樂也
感之

京 符類屋政信

京 渡邊氏重

常々心ゆく毎に鐘のなるを
聞かば

氏重

住持 山田若晴

一 夢を覺るもとうか
ん郭么 若晴

大坂 半井玄下

夜通一 夢を覺るもとうか
ん郭么 若晴

京 松坂和年

京松坂和年

川乃歌り一帯小のくふ月社和名集

大坂水峯山前

中乃又あゝくを洞なる人せ
勢云

京隼士親祐軒

雲水乃菊とまうく
珠の先きら辰

大坂 女采春

富士とてふは神ありては
まはれり
業春

京 山嵐元隣

彌りたり針山乃ありは也
元隣

播摩 池田是誰

松よとては麻乃はは玉の
物人
是誰
官

堺 阿智子林庵

堺 阿智林庵

紅葉や小い南のふかみ秋 發

伏見 高瀬道茸

幽なる身入るをあきらむる 螢火 道茸

京 大村可全

了色小りの事なきものぞよ 蟬 可全

大坂 伴勝討意辨

意の母にありて
下七部と意辨
るは

伴勝 竹内一葉軒

出のめりや虎の勢
子とら月 一信

江戸 培満直

汗水たかき
清水那満

加賀 大指可理

可理

加賀 大捨可理

月一早や子葉北溪乃波の波
可理

京 服部 齋牧子

茂中いゝる森也葉守は神尾安
定清

和加 新屋 兼山 三之助 殿

塩や光方
のそみ
中を
志ほらや塩やま
わうの道
塩を

与那戸和嶋宗臣

早今もさうなれば
宗臣

京 金月重信

むしり 聖代をいふ神の尾花

重信

江戸 小野信世

青天乃白りや
花七世

信世

堀 玉子貞直

堀 玉子貞直

首根より次木小味や流様
一五

大坂 井世義之

毛乃もろもろやもろもろ
胸の響

胸の響

江戸水野寺在清門殿

大文字のまろもろもろ
宗職

京野口資方

雨音は名を知らず
あはれ月夜

伴辨基木田俊

鬼は塊をいば
はらばらに
あはれ

尾張 後進友志

侍ころし
胸はなご
あはれ
あはれ

河内 清水春宵

河内 清水春宵

公暇と申侍らるるを此は清く須き者

大坂 了善寺夕翁

五月の雨は世界とらるるやふか

友貞

京 井上友貞

五月雨ハ世界とらるるやふか 友貞

京 端 達 重

子也其老乃可其富及之定重

大坂 住持 村宗善

中子板也枯之類本多橋網宗善

河内 三宅 女永覺

珍見 口志 少心 水心 糸心 覺心

京 双藤 屋宗隆

京 双滝屋宗隆

とく
人 夢をいんもらわきん
松北家 宗隆

江戸 山村兼光

夢をいんもらわきん
松北家 宗隆

信濃 菅由本清

菅由本清

大坂 波谷安明

秋風よよきやうきよきとんね柳へ寄

三四

江戸 石田笑言

よきよき風よよきよきとんね笑言

佐野 池田山室休

五月魚也、好の好、也沖の石室休

尾張 一原友枝



尾張一原友枝

為のけりやふれゆり
義

京谷口重以

四有山乃高
重以

後中堀田不必

ふりや
不



京西田元知

彩薩壇の花壇や善賢象

元知

大坂唐曇栴雨軒

多しるに 涼すや

多しるに

涼すや

京井野口流味

繪小のりもろくも花流味

尾張清水春流

尾張清水春流

灌漑以生民之壽也民不

塲 天神西塲

鳥之一角二角 雲如布木王

大坂 森村休翁

淨心寺古刹也其性靈

大坂川崎方女

岩や海風おききりてきく娘はし方女

堀 若 永重

八年の暮山を人子に若根永重

大坂斤山秋月

若根永重秋月

伊勢松坂春陽軒

伊勢松坂春陽軒

風光三月春
もやもや
あま

堺 前坊茶心

美之松よ冬
八古松
玉子
あ

京松世定用事

春好心
了
了
雲
并
此
梯
火
あ

大坂 尾坂好道

雪ふと多し袖しらくぬるる馬好道

堺 池端宗介

白雨や所もわはりからいふ成之

大坂 井口安貞

父孝子は疵も入らずも子也は賞也
若菜子

江島 在馬友仙

江島 在馬友仙

江島門ハ人々所此ニ入り来リて言

杉川 葉友藤田友雨

歌子酒子 詠子 酔子
毛古月夜 秋雲

京 寂光寺泰園

少名ものかゝる花や 跡道乃 露
泰園

京 中嶋貞宜

君の河を渡るに
おとせよ物道
貞宜

大坂 宇野河内

安んずるに
舟は花の舟
津

河田 津田道志

芳山を渡すに
舟は花の舟
貞勝

東 斤桐良保

東 斤桐良保

花丸
月
虎
丹
良保

池田 佐伯次娘

水油
花柳
髮
舞

京 高梨野也

心
打
丸
所
入
髮
舞

京古筆一村

寫花乃錦屏筆下可

大坂川崎靜壽

己月交は
いよひの
川崎
靜壽

堺川邊長治

たのしき園歌
細代式長治

山崎 秋林見卷

山崎 秋林 畫

事初也今年おとく大畧故 枕蓋

京 高川 正由

事 風の吹 遠 崎 隣 茶 正由

揚善通寺 以 齋

之日

之物 あらまじき 筆 始 圓

林宗野款蒲釵

圓金島月北靴
薄釵

場 南元順

花子鐘釵
夕方

備前 一時軒

侍古一郭
杉字 雅仲

大坂 天海公宗久

大坂 天徳八本宗久

夕々々 宿寺に 破竹の松の音 久

伴 松一景

不相思 乞花の風 景

伴 松一景

此風也 夕々々 宿寺に 破竹の音 久

大坂 谷宗也

及古屋子や ちんすん
うらの 橋網忠由

徳永 西村良菴

月に光りさ 徳永火や 石河忠
良菴

肥後 能本一直

肥後 能本一直

江戸 名田未琢

京 岩井東安

心あてにゆらゆらと菊の露 未安

江戸 宮島吟松

草生れ宿乃たきよ 著 宮島吟松

京 飯田成次

雪の淵し 九 宿乃たきよ 著

大坂 西村可秋

大坂西村可秋

可方山は花を竹の
のふり

場 水野新廣

冷鴨のいし瀬乃波の
也礼

相原

大坂之新以仙

かきり物也遊乃
の

浮坊踊 益壽

伏見金松友世

物柯や肩の重なり
乃乃つ揺
友世

舟住池田宗直

いまら
宗直
乃乃

大坂 林彦親

圓亭
乃乃

伏見 金松院

伏見 寺門院

枯り泣きの心もなほ
あはれなるに
あはれ

大坂 藤田幸右

君もさきゆくか
あはれなるに
あはれ

和歌 和歌集

あはれなるに
あはれなるに
あはれ

大坂 西田之住

夫人の雲路とて海方請
久経

五四

江戸 森石斎

うき身乃けりも
親信

翠々々

和羽 今井正威

みづ鏡に影の心
正威

河波 棟梨一喜

阿波 棟梨一喜

宿物如酒宴中持事の今日一喜

紀前 若山女高田

経母之朝乃風流う家柄

降参

大坂 前川半造

入月や杉の

物焼巻

由栗

備中 吉原信元

今一夜あふれぬ破お積

信元

江戸 延沢破扇子

さうふれ舟ハ波流と冬ハ帆
破扇子

大坂 吉田立欵

と有る也神代舟ハ
吉田立欵

大坂 高木川草子

大坂 高木川草子

これ花のしるしなり

あじ丸 松意

伊豫 山田二休

草双紙のあけ漢下花町二休

江戸 高井立志

草双紙のあけ漢下花町二休

南都 素門宗珩

切ん端乃清くふたなる如ゆき酒宗珩

大坂 川崎方孝

下はくたつふきふりあふ吟
方存

肥前 園野明之

楊梅小首あゆみゆく東
明之

大坂 高石石祿

大坂 高石石録

新女如掌花
だんや石録
子

紀伊藤代石倉入

多ありの輪や人の玉う
ハ
一入

江戸 狩宗利

夜絶つほん
被草
宗利

南都 金松堂軒

斤年一秘うらんむ明る 覓

高野山 蓮花寺吟市

ふやと結真言門 濃勝り松吟市

江户 竹井炭利

涼 風子如之の母とる所は 炭利

京朝江一風子

京朝江一風子

風は散り白波乃京
権寛

大坂中坵神和軒

海鳥白鳥躍り
久保

和易海峯西院

海鳥白鳥躍り
小舟乃
純子

大坂 落山玄端

包く水みく月まきし松乃君 母睦

侯爵 山田竹夫

おけい乃親あを別家ゆ敷る 笑

大坂 武野保後

おのまてやま前佛はすて 保後
念利

京 大井貞起

京 大井貞恕

秋好し中宮なりし龍田娘貞恕

大坂 滝沼宗貞

子孫永く安んずるを
念ふ
色戸

伊前 小松原長時

夜もやほろろかきしあけの雲
影

京相谷一滴

月之舞月十九家新法師一滴

長門規玉規吉

花乃枝心山と之龜井此法事規吉

伏見栗田玄泰

其てかう天庭に入新月此弓玄泰

大坂平山方教

京嶋本正伯

一トリ先ていふやうに七の五
品

茂初板橋金剛院

煙くゆふ心園くるし奇乃花恩生

京奥西友三

徳石とあしすまはるかたけつま 友三

大坂井原西彦

大坂 井原西彦

只の時もよそに
羨みは揚比

西鶴

堺 藤井徳彦

米詰春也
蹴木公の
杖乃金盃
銀社

大坂 平野仲安

女子は
あまの
とくふ
こし
く
た
り
集

大坂 和氣由貞

初鴈も丹白のまじりし秋糸由貞

江戸 蝶之子貞宣

若くはくらくくもや蝶の行

蝶之子

大坂 星田悦春

丹白のまじりし秋糸悦春

京 秋下貞盛

京 秋下貞盛

乃れを因乃玉もぬけぬ貞盛
柳式

大坂 山口清勝

花も如也今一了り然也下戸清勝

京 萩野似船

九月十三日

夕陸奥より

了

先の月見しうろ
まゝにや幸ふ乃彩 似船

江户一孤翁調和

增底也
以之
言
不盡
調和

河内小山日暮重興

香子也
烟
病
美
不
與

京
小村湖春

紫
之
道
如
隱
若
之
就
方
園
孤
栗
湖
春

大坂 中林素玄

婿多火ほりか
ちが子花漢
素玄

京 田中銀作軒

花は身くおぬもの
花あり乳銀

大坂 生白庵行風

多うあれ
吾書坊春中
宮とら
行風

堺 柏井一守

堺 柏井 一守

八月十四日

月とえ

草ふくみちら月あま乃月

一守

儋没半孤軒省裁

神てきあはれ月たあつ。一守

あつ。一守

京六条道場禪雨

庵寺

下

時宗をいふ名をいふ

法下

あま

禪雨

堺 細谷柳菴

松子有之乃朽也人たり
歳元

七四

大坂 和氣遠舟

念之乃伸麻呂
乃有

京 寺田無禪

月毎に書きては
乃有

大坂 丹波松門亭

